

ひめした むかいだ かめづか
 姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡(本発掘調査A)

所在地 姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡
 安城市姫小川町姫野池・姫向田、小川町寄島、
 東町向田・亀塚・秋葉下、桜井町中狭間・大橋
 (北緯34度91分77秒 東経137度09分71秒)

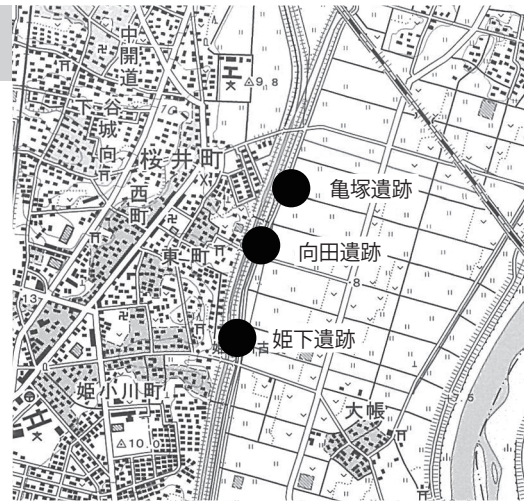
姫下遺跡
 安城市姫小川町姫野池・姫向田、小川町寄島、
 (北緯34度91分46秒 東経137度09分74秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)

調査期間 令和7年8月～9月、令和7年8月

調査面積 213㎡+67㎡

担当者 樋上 昇・河嶋優輝

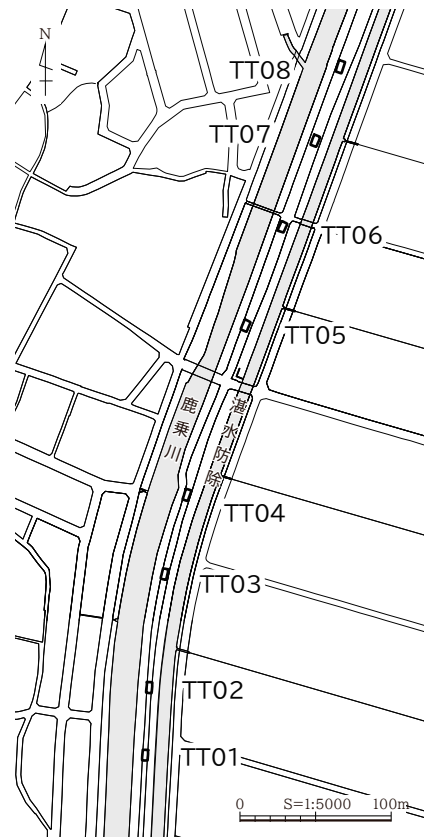


調査地点(1/2.5万「安城」)

調査の経過 姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡の調査は愛知県建設局知立建設事務所河川整備課による中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査面積は213㎡であり、調査期間は令和7年8月～9月である。

姫下遺跡の調査地点は鹿乗川とそれに並行する水路の間の堤防部にあたり、TT01～04は3.5m×7m、TT05～07は4m×7m、TT08は4m×7.75mのトレンチを設定して調査を行った。調査面積は67㎡であり、調査期間は令和7年8月である。調査地点は鹿乗川に直交する東西道の南北にあたり、TT01、02は5m×2m、TT03は3m×2.5m、TT04～08は4m×2mのトレンチを設定して調査を行った。

姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡立地と環境調査の概要 遺跡は全て、碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、調査範囲は南北500m弱にわたる。TT05～08では遺物包含層が確認された。上面の標高は約7.3m～7.5mで、北に行くほど高くなる。TT01～08にかけて、基盤層となる砂質土層

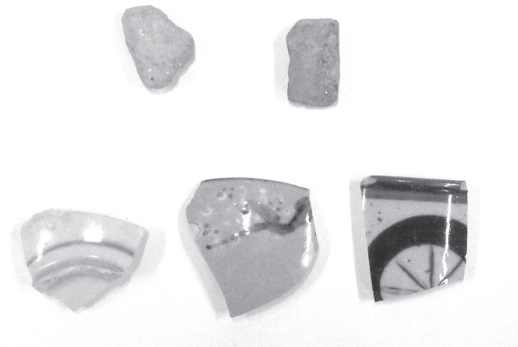


姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡
 令和7年度本発掘調査A トレンチ配置図
 S=1/5,000



TT05 完掘状況(北より)

は標高約7.2m～7.3mで確認された。ただし、TT02では粘土質土層が厚く堆積しており、標高7.0mまで掘削しても基盤層が確認できなかった。遺構としてはTT05で基盤層に打ち込まれた杭、TT06で遺物包含層への掘り込みを確認した。



TT07出土 土師器・近世磁器・近現代陶器

まとめ 遺物は造成土からは近世～現代の陶磁器や瓦片が、遺物包含層からは土師器、灰釉陶器が出土した。

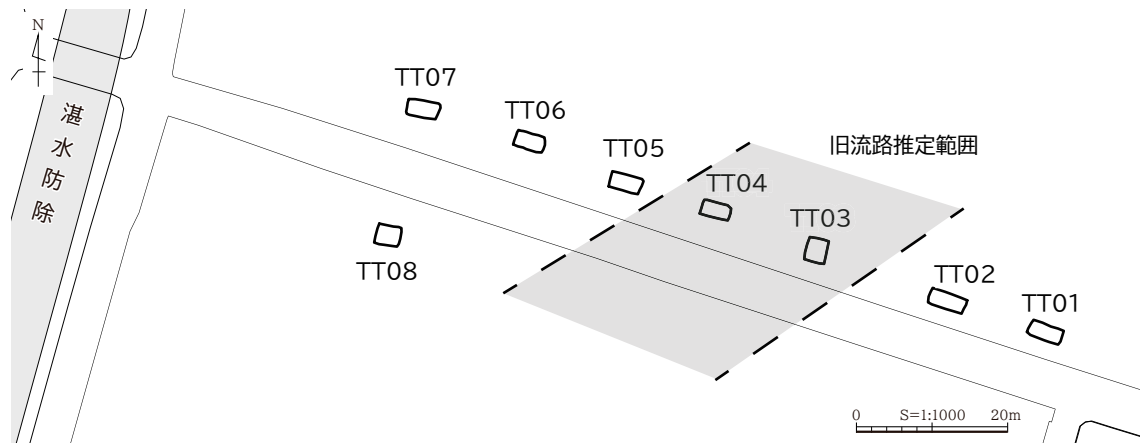
姫下遺跡 今年度調査では北半のトレンチで成果が得られ、地形の傾斜方向も確認することができた。

立地と環境 姫下遺跡は、碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、今年度調査地の北西側で行われた過去の調査では古墳時代前期の居住域や旧流路が検出された。

調査の概要 TT01ではトレンチ内の西側でのみ、標高7.4mほどで土師器を含む遺物包含層を確認し、TT02では標高7.0mで土師器・灰釉陶器等を含む落ち込みを検出した。また、TT03では標高6.2m、TT04では6.4mほどで植物遺存体や繊維を含む黒色粘土層を確認しており、土質から、以前に検出された古墳時代前期ごろに埋没する旧流路の堆積と推定される。

まとめ 出土遺物は乏しいものの、東半部では旧流路や遺構、遺物包含層が確認できた。

(河嶋優輝)



姫下遺跡 令和7年度本発掘調査Aトレンチ配置図 S=1/1000



TT01 完掘状況(東より)



TT02 出土 土師器・須恵器・灰釉陶器・近世陶器